



みどりの東北

この活動は、アサヒビール株式会社
が全国的に取り組んでいるもので、「森
林環境保全活動等」を通じ、森や水
の大切さを身近に感じて、日々の生
活環境と森林環境との関係について
理解と関心を深めることを目的とし、
協定に基づき年2回(春・秋)活動を
実施しています。

今回で第7回目となりましたが、
次回以降の活動も盛り上げていくこ
とを参加者全員で確認して終了と
なりました。



標柱の杭打ちに挑戦

森に親しんでもらえるよう、樹木名
標柱を約70本設置した後、クヌギ
の苗を樹木園に植樹しました。杭
打ちは、かけやを使って行いましたが、
慣れない道具に苦労している参加
者が多かったようです。

ミニコラム

「へえ〜、そうなんだ!」

カラマツ

落葉松(マツ科)

岩手北部森林管理署 技術専門官

松尾 亨

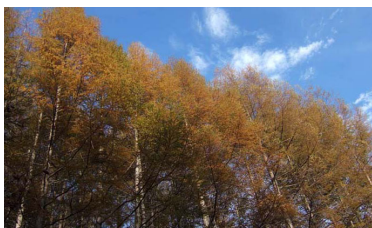
Tooru Matsuo

私 がカラマツを好きな理由は、四季を通した林の明る
い雰囲気かな!新緑のまばゆさ、盛夏の木陰、黄金
色の秋、静寂の冬・・・森を歩いていると「北の国から」のテ
ーマを口ずさんでしまいそうな、カラマツを紹介します。

樹木の特徴は、樹高は35~40m、胸高直径で1m程になり
ます。葉は2~5cm程の針形で束生します。花は、写真のよう
にクラゲを逆さにしたようなピンクの雌花と、薄茶色の雄花が
開葉前に咲きます。顕微鏡で拡大した写真では雌花のひだと、
雄花に花粉壺がみえます。受粉後球果は成長し、初夏には

小型のパイナップルに似た形に成長します。葉は10月中旬か
ら黄葉し始め、黄金色に森全体を染めてラストは、雪のように
落葉する針葉樹では珍しいタイプです。

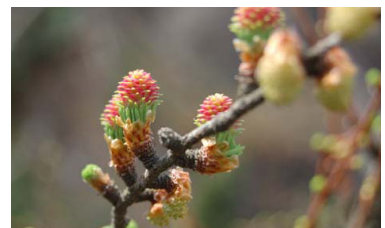
カラマツ材は、かつては製材した際に「よれる・われる・やに
が出る」等で評判が悪かったのですが、今では集成材や合板
技術の開発で、明るい板目が好まれ、また腐朽性も強く引く手
もあまたです。間伐時代に売れ筋に変化して良かった!時代の
変遷とともに価値や評価も変わりますが、スパンの長い林
業のように、人も森も「永い目」で見てもね。



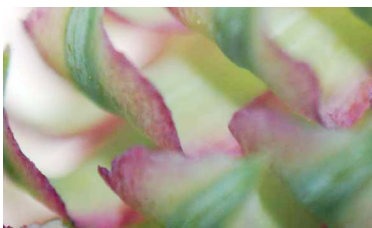
黄金色のカラマツ林



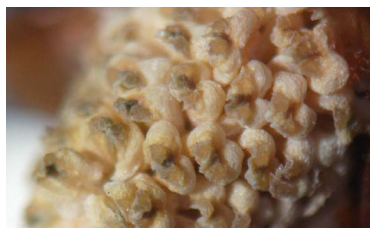
盛夏のカラマツ林



カラマツ開花



顕微鏡で拡大したカラマツ雌花



顕微鏡で拡大したカラマツ雄花



カラマツ球果(パイナップル?)